

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成28年度 大学職員情報化研究講習会
～基礎講習コース～
開催要項

<http://www.juce.jp/kenshu/kisoko2016/>

開催趣旨

本協会では私立大学における職員の職務能力の開発・強化を支援するため、全学的な教育の質的転換及び教学マネジメント体制の整備に向け、職員として情報通信技術（ICT）を駆使した教育改革に主体的に関与できるよう知識理解を深めるとともに、実践力の向上を目的として研究講習を実施しています。

本コースは、参加者が、ICT活用の可能性や工夫について基礎的な理解を深め、大学の管理運営や教育活動の充実に向けて主体的に取り組む考察力の獲得を目指します。

1. 本コースのねらい

開催趣旨に基づき、参加者が次のような成果を修得することを目指します。

- ① ICTの活用が大学の管理運営、教育活動の充実に果たしている役割を認識する。
- ② 自己の業務の改善や職場における課題解決にICTの活用を考え、提案できるようにする。

2. 対象者：私立大学・短期大学に所属する職員

（勤務年数の浅い方々や他業種からの転職者など当協会への加盟・非加盟は問いません）

3. 日程：平成28年7月20日(水) 12時45分 ～ 22日(金) 正午解散

4. 会場：浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市西区雄踏町山崎 4396-1 ☎053-592-2222）

* 本研修は、原則1部屋2名利用の合宿研修として全員上記ホテルへ宿泊いただきます。ただし、シングル利用の希望があれば先着30名まで受付いたします。なお、部屋割りは当方で行います。

* 最寄り駅 JR 東海道本線「舞阪」駅（浜松駅より約5分）より送迎バスを用意しております。

5. 募集定員：150名（申込先着順）

6. 申込方法：本開催要項添付の「申込書」に記入いただき FAX または Web サイトから申込みください。締切は7月12日(火)ですが定員に余裕があれば受け付けますので問い合わせ下さい。

Web : <http://www.juce.jp/kenshu/kisoko2016/> FAX : 03-3261-5473 Tel : 03-3261-2798

7. 参加費：加盟校・・・1名につき30,000円 / 非加盟校・・・1名につき60,000円

その他に、宿泊費（2泊5食付）として29,000円を1日目受付時に直接ホテルへお支払いください。または、シングル利用の場合、宿泊費として37,000円をお支払いください。

8. 参加費の支払い：大学でまとめて7月13日(水)までに銀行振込によりお支払いください。

<振込先> りそな銀行 市ヶ谷支店 普通預金口座 口座番号：0054409

名義人：私情協 シジヨウキョウ

* お願い：振り込み名義に「k28」の記号を追記願います。

* キャンセルの場合は7月13日(水)までにご連絡いただければ振り込み手数料を差し引いた参加費を返金します。それ以降のキャンセルは、資料代等の実費を請求します。

* 当日のキャンセルは、ホテルのキャンセル料が100%発生しますのでご了承願います。

9. プログラム概要

【事前研修】

大学を取り巻く環境、社会が大学に求めること、ICTを活用した学修環境など、研修参加にあたり把握しておいていただきたい基礎的な情報について、私情協のWebサイト上のコンテンツと昨年度実施した本講習会のグループ討議の成果を踏まえて事前に学習していただきます。

【本研修】

第1部では、研修を進めるにあたり必要となる、大学を取り巻く環境、大学教育の質的転換の必要性と教学マネジメント体制の重要性、それらを実現するための基盤環境として情報通信技術（ICT）活用の意義などについて情報を共有し、課題認識を深めます。

第2部では、自らがどのように教育改革や大学改革に関与すべきか、対話と議論により望ましい改善案の提言作りを通じて、主体的な考察力、イノベーションに取り組む姿勢の獲得を目指します。

第1部 全体会

(1) イントロダクション 「研究講習会での学びについて」

木村 増夫 氏（上智学院理事、運営委員会委員長）

大学の経営戦略や教育活動の充実に向けて、職員が主体的に取り組むための心構えについて理解の共有を図ります。

(2) 情報提供

①「大学の情報戦略と課題」

石井 博文 氏（学校法人静岡英和学院 理事長）

私立大学としての存在価値を高校生や社会人の方々に広くアピールし、理解と協力が得られるようにすることが大学改革に求められています。それには、あらゆる場面において情報を最大限活用して問題発見・解決できるような仕組みが必要となります。例えば、多面的な視点から学内のさまざまなビッグデータをPDCA サイクルの中で活用できるシステムやサイバー攻撃の脅威から貴重な情報資産を防御するリスクマネジメントシステムなど、大学職員として理解しておくべき ICT 活用の基礎知識を紹介します。

②「全学ポータル、学修支援システム」

寛 直之 氏（明治大学情報メディア部メディア支援事務室副参事）

学生・教職員が日常的に使うポータル機能、授業資料・レポート提出などの学修支援機能、シラバス閲覧機能、正課外教育を支援する機能、4年間の学びを振り返るポートフォリオ機能等を統合し、各種機能をスマートフォンへ対応した取り組みについて紹介します。システムを再構築した背景、情報化推進体制、導入後の評価、今後の課題等についても共有します。

(3) 全体討議

事前研修を含め、情報提供について理解度の確認を行った上で、グループごとに ICT を活用して教育改革及び業務改革に主体的に関与することの重要性について気づきを共有します。

第2部 グループ討議

大学の管理運営や主体的な学修環境を構築するにあたり、職員各自が果たすべき役割やそれを実現する手段として ICT を活用する意義・重要性について、グループ討議により確認・共有し、教育活動のイノベーションにつながる提案、大学の管理運営改善に資する提案に向けて、ICT の活用を含む望ましい改善策の構想作りを行います。

ステップ1 気づきの確認 1日目 16:45～17:15

第1部（イントロダクション、情報提供）を受けて、大学改革の必要性、職員に求められる能力、ICT を活用して教育改革及び業務改革に関与することの重要性と主体的な取り組み姿勢について、各自がどのような“気づき”を得ることができたか、グループ内で発表し、共有します。

ステップ2 討議と成果のまとめ 2日目 9:00～17:30 3日目 9:00～10:00

教育活動のイノベーションにつながる提案、大学の管理運営改善に資する提案に向けて、ICT を活用した望ましい改善策の構想作りについて、午前と午後に分けてグループ討議を行います。その際、グループ討議の成果を自己点検・評価できるようにするため、以下の「到達度評価項目」のチェックシート※を用いて確認します。

ステップ3 発表・相互評価 3日目 10:00～12:00

グループ討議の成果発表、グループ間での相互評価、意見交換を行います。

※ 到達度評価項目：問題解決において求められる主要な能力を到達度評価項目として設定し、グループ討議における自己の関与を基に、自己評価により到達度を確認します。

- ① 課題発見能力：大学が抱える諸問題について、その本質的な課題を探るため、多様な観点から事象を分析しようとする態度を持つ。
- ② 創造的思考力：課題解決を図るため、積極的にアイデアや意見を述べて創造的な議論を促そうとする態度を持つ。
- ③ コミュニケーション能力：他のメンバーの意見やアイデアを尊重し、議論を発展させるためお互いに協調しようとする態度を持つ。
- ④ スキルを使う姿勢と態度：討議を通じて学んだ成果を認識し、これを常に磨きながら、自身の大学の教育改善に役立てようとする態度を持つ。
- ⑤ プレゼンテーション能力：グループでの討議内容を他のグループに分かりやすく伝えるため、相互に協力しながらスライドを作成する。
- ⑥ 発展的思考力：質疑応答や他グループの発表から、新たな着眼点や改善点を発見して、それを相互のブラッシュアップにつなげようとする態度を持つ。

【事後研修】

グループとしての研修報告を A4 で 2 枚にまとめ、発表スライドを添付資料として 8 月 26 日（金）までに提出する。 提出先：kisoko2016@juce.jp

平成28年度 大学職員情報化研究講習会 基礎講習コース タイムスケジュール

	9:00	グループ討議 ステップ2 討議	9:00	グループ討議 ステップ2 成果のまとめ
		適宜休憩		
		グループ討議 ステップ2 討議	10:00	グループ討議 ステップ3 発表・相互評価
12:00	12:00		12:00	(解散)
		受付		
12:45		オリエンテーション 自己紹介		
13:30	13:00	開会挨拶 イントロダクション		
13:55		情報提供1		
14:45		休憩		
15:00		情報提供2		
15:50		休憩		
16:05		全体討議		
16:45		グループ討議 ステップ1 気づきの確認		
17:15	17:30	チェックイン・休憩		
18:00	18:00	夕食・懇親会		
		夕食		
		〔代表グループによる 中間発表〕		
19:30	19:30	フリーディスカッション		

参考：参加者の声
平成 27 年度アンケートより抜粋

- ・ 先進的な取り組みの導入経緯、背景、内容、結果を紹介いただき参考になった (20代 A 班)
- ・ 学生目線に立ってないことに気付かされた (30代 A 班)
- ・ グループ討議がうまく進むか不安だったが、様々な意見が出て、徐々に意見がまとまり順調に進めることができた (20代 A 班)
- ・ 他大学職員との意見交換は普段の業務ではないので良い刺激になった (20代 A 班)
- ・ 討議で得たコミュニケーション力を活かして業務しやすい環境づくりや自ら動くことにチャレンジしたい (20代 A 班)
- ・ システムが良いので導入したわけではなく、背景に教育の質保証などの意図や経緯があることが理解できた (20代 B 班)
- ・ 他大学、他部署のグループで自分では気付かない点について情報交換できた (20代 B 班)
- ・ 出身、年代が異なるグループが一つの目標に向かって団結して成果を残せて非常に達成感が得られた (40代 B 班)
- ・ 様々な立場の職員が集まることで、同じ ICT を活用した提案でも多様な意見が出て興味深かった (20代 B 班)
- ・ 学内で起きている問題に ICT を用いた解決方法を学ぶことができ、改めて ICT の有用性を感じた (20代 C 班)
- ・ 他大学の事例をもとに新たなサービスを考える姿勢が身に付き、グループで働くことの重要性に気が付いた (20代 C 班)
- ・ 事前研修の資料が用意されていたので講習会への入りがスムーズだった (20代 C 班)
- ・ 教職員それぞれの職務内容を確認し、複合的な視点が持てる努力をしたい (20代 C 班)
- ・ ICT 導入事例紹介から問題点に対して積極的に取り組んだ様子が良くわかり、その姿勢を大切にしたいと感じた (20代 D 班)
- ・ ICT を活用した新しい学生支援の在り方について他大学の課題認識や方向性が聞いて興味深かった (20代 D 班)
- ・ 他大学の抱えている悩みが似ていることが分かり、先手を打って動き出し差をつけなくてはならないと働きかけしたい (20代 D 班)
- ・ 学生のために何ができるか問題解決のために高い意識で業務に取り組みたい (30代 D 班)
- ・ 他大学との交流で新たな視点で自大学を見ることができ、ICT への苦手意識もあったが興味がでてきた (20代 D 班)
- ・ 職員に求められることなど日常業務に追われて忘れかけていた初心を思い出す切っ掛けになった (20代 E 班)
- ・ 大学の求められることは似た部分が多かったが、そこからのイノベーションがグループごとに異なり刺激を受けた (20代 E 班)
- ・ PDCA を業務に取り入れ、主にフィードバックを通常業務でも活かしたい (20代 E 班)
- ・ 年代が異なる中での議論は、様々な角度からの考え方を身に付けられた (30代 E 班)
- ・ 大学の役割をこれほど時間をかけて考えたことがなかったが、職員の核のようなものを感じることができた (30代 F 班)
- ・ 昨年同様は退歩の始まりの言葉から、日々改善点を見つけ提案したい (20代 F 班)
- ・ 学生の幸せについて考えることの大切さを学ぶことができた (30代 F 班)
- ・ 疑問に思ったことを周囲と共有して解決策を探り、日常生活で大学に関する情報を積極的に収集したい (20代 F 班)